

令和 7 年度 採択研究課題の概要

研究課題名	リーシュマニア症およびシャーガス病の感染・病態リスク評価系の構築	貢献する 主な SDGs	
研究代表者 (所属機関・役職)	加藤 大智 (自治医科大学 医学部 教授)	研究期間	5 年間
相手国	エクアドル共和国	主要相手国 研究機関	国立エクアドル中央大学
研究課題の概要			
本研究では、エクアドルにおいて、「顧みられない熱帯病」の代表ともいえるリーシュマニア症およびシャーガス病について、感染・病態リスク評価という観点から疫学研究を展開する。伝播機序の解明に基づいた感染症対策、早期治療につながる診断・検診法の開発・普及を目指し、次の研究を行う。1) 感染原虫の同定、2) ベクターおよびリザーバー調査、3) 皮膚リーシュマニア症の分子診断法の開発、4) シャーガス病の非侵襲的な検診法の開発、5) ベクター暴露評価系の開発。本研究により、継続的な感染症対策に資する知見の蓄積とともに、リスク評価法、分子診断法、非侵襲的な検診法の創出および社会実装が期待される。			

研究課題名	モンゴルに蔓延する D 型肝炎ウイルス感染の制圧に向けた研究開発	貢献する 主な SDGs	  
研究代表者 (所属機関・役職)	駒 貴明 (徳島大学 大学院医歯薬学研究部 准教授)	研究期間	5 年間
相手国	モンゴル国	主要相手国 研究機関	モンゴル国立医科大学 日本モンゴル教育病院 モンゴル国立感染症センター モンゴル国立病理センター
研究課題の概要			
B 型肝炎ウイルス (HBV) と D 型肝炎ウイルス (HDV) の重複感染は、肝細胞がん (HCC) の発症リスクを大幅に高める。モンゴルでは HBV/HDV 重複感染率が 60% 以上と世界で最も高く、HCC による死亡率も世界一である。しかし、HDV 検査薬が高価なため検査体制が整わず、感染症専門人材も不足している。これらの課題解決の要望を受け、本課題では安価で簡便な診断法を開発・定着させ、疫学調査で感染実態を解明し、二次感染予防を図る。また治療法開発にも繋がる HDV の発がん機序解析を共同で進め、高度な科学技術を備えた人材を育成する。これにより、持続可能な検査体制構築と専門家育成を通じ、HDV 対策の基盤を形成する。			

※研究課題の並びは、研究代表者名の五十音順です。